

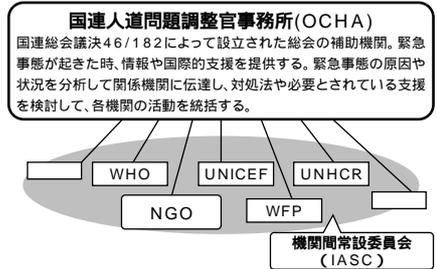
# アフガニスタン緊急援助に見る ユニセフと国連機関や NGOとの協力体制



いま世界では、困難な状況にある子どもたちを支援するために、国連機関や多くのNGOが活動しています。さて、ユニセフは単独で活動しているのではなく、これらの組織と共に活動をしていることをご存知でしたか？今回はユニセフと他の国連機関やNGOとの協力関係を、アフガニスタンでの緊急支援活動を例に取りご紹介致します。

### 1. 協力体制：どういった仕組みなの？

アフガニスタンでは、ユニセフを始め多くの機関がその得意分野を生かしながら支援活動を展開しています。しかし、個々に活動しても効果的な支援は出来ないため、国連人道問題調整官事務所(OCHA)が各国連機関やNGOなどの各機関のまとめ役となります。また、機関間常設委員会(IASC)を設け、各機関がどういった活動をするかを定期的に話し合い、支援対象の分野毎に中心的役割をする機関を決め、そのもとで各機関が協力して支援活動を行っているのです。



### 2. 支援分野：何を目的としているの？

支援を行う際には、必ず目的が設定されます。アフガニスタンの場合、以下の5つの目的を設定し、その目的に対するテーマ別のグループ(基礎的の社会サービス、人権、栄養など)を作り、更にその下に具体的な行動をとるための小委員会を設けています。その小委員会に各機関(国連機関、NGO、アフガニスタン政府など)が参加し、協議を行って支援活動を展開します。

- 5つの目的とは...
- 1)人びとの苦痛を和らげること
  - 2)特にジェンダーに重点を置いた、人権の擁護、および推進
  - 3)基礎的の社会サービスの提供
  - 4)アフガニスタン人が安定した生活が出来るようにすること
  - 5)隣国にいるアフガニスタン難民の帰還

ユニセフは、水と衛生に関する小委員会や教育分野の小委員会において、「調整役」となってNGOなどと一緒に活動しています。また、保健分野の委員会では、WHO(世界保健機構)が中心となり、ユニセフは技術的な面などでのサポートをする形で活動しています。ユニセフは「子どもの人権」を擁護するための活動を他の機関とともにやり、その中心的な役割を果たすべく活動しています。

### 3. 事例：ユニセフと他の機関は共同でどういった活動をしているの？

それでは、以上のような仕組みの中で展開されている、ユニセフと他の国連機関やNGOとの具体的な活動例を見てみましょう。

#### 【国連機関との協力】

世界食糧計画

(WFP: World Food Programme)

WFPとユニセフは、アフガニスタンの周辺国(パキスタン・イラン・トルクメニスタン・ウズベキスタン・タジキスタン)の8ヶ所に輸送基地を設け、共同で国境を越える物資輸送を行っています。特に栄養不良の子どもたちが多い北部と南部を重点的に粉ミルクを届けたり、小麦粉やとうもろこしと大豆を混ぜ合わせた3000トンもの粉を住民に配布しました。また、各地の栄養状態の調査を共同で行い、どこかの地域で栄養不良が深刻かを調べ、今後の食料輸送計画の策定を行う活動もしています。



©UNICEF

世界保健機構

(WHO: World Health Organization)

WHOとは、はしかなどの予防接種を行う事業で協力をしています。2002年1月には、カブール市内の子どもたち57万2000人にははしかの予防接種を行うことが出来ましたが、最終的には6歳から12歳までの全てのアフガニスタンの子どもたちに予防接種をすることが目標です。また、アフガニスタンでは長年の紛争によって、国が予防接種をする制度が殆ど崩壊してしまったので、WHOとユニセフは共同で政府の予防接種政策・制度の再建と、アフガニスタンの保健制度の立て直しを支援しています。



©UNICEF

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees)

紛争や干ばつによって発生した難民は、パキスタンなどの国外に流出した人びとだけでなく、アフガニスタン国内で住む所を追われた「国内避難民」も含めて、住み慣れた土地への帰還を希望しています。UNHCRとユニセフは、難民が生まれ育った土地と人びとのもとへ帰れるよう支援活動を行っています。例えば、今年に入ってから14万3000人以上がイランとパキスタンから帰還しました。そのうち約3万人はイランからアフガニスタンの西側国境を越えて帰国し、11万3000人がパキスタンからチャマンやトルカムなどの出入国地点から帰還しました。帰還民の大半はアフガニスタンの少数民族で、多くはタジク人です。そして、ユニセフとUNHCRは共に「子どもの保護のための行動枠組み」を作成し、地雷で負傷した子どもたち、父親のいない家族や、弱い立場にある女性の保護を行っています。

#### 【NGOとの協力】

セーブ・ザ・チルドレン(Save the Children)

「過去23年間、学校教育は時の政権の人質になっていたようなものです」とアフガニスタン教育相のアブドゥッラッスール・アミン氏は語っています。荒廃した公教育制度の立て直しを行うために、ユニセフは国際NGOの一つセーブ・ザ・チルドレンなどと共同で支援活動を進めています。特に初等教育の復興に重点を置き、教員の育成や子どもたちが学校に戻れるように、2002年の2月までに、小学校1年生向けの教科書と教師用指導書を約3,000冊作成・配布しました。今後さらに教科書と指導書の増刷を行い、配布する予定です。



©UNICEF

アスチアナ(Aschiana)

アスチアナ(ペルシャ語で「住みか」の意)はユニセフと共に、ストリートチルドレンのために活動をしている地元アフガニスタンのNGOです。アスチアナでは7歳から16歳くらいの子子どもたちが、働きながら勉強が出来るように、仕事の合間に施設へ来て授業を受けられるプログラムを組んだり、食事を提供するなどの活動をしています。現在このNGOから支援を受けている約2000人子どもたちのうち、約650人は女の子です。タリバン時代にも女子教育を行っていたために、アスチアナの代表、ムハンマド・ヨーゼフさんは弾圧を受け投獄されたこともあり、タリバンに見つからないように自分の家で密かに教育を行う「ホームスクール」を開いたりして今まで活動を続けてきました。

1996年に行われた調査で、アフガニスタンには2万8000人以上のストリートチルドレンがいることが分っており、地元のNGOアスチアナとユニセフは長年にわたってこの地で共に活動をし、そしてこれからも、この国の未来を担う子どもたちを、栄養や教育の両面から支援していきます。

現在でも多くの子どもたちが栄養不良に苦しみ、厳しい環境の中で暮らしています。しかし、国連機関やNGOの支援活動の結果、3月末に150万人の子どもたちが、学校に戻って学べるようになりました。この教育を受けた子どもたちがアフガニスタンを再建する力となる事をユニセフは願っています。